

SETAGAYA TRUST & COMMUNITY DESIGN

ひと・まち・自然

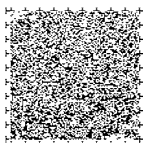
トウまち Press (一財) 世田谷トラストまちづくり情報誌

December 2025

Vol. 24

特集
自分でもできる

雨庭 AMENIWA



上の「音声コード」に、本誌の概要を記録してあります。
専用の読み上げ装置を使用して、音声で内容を読み取ることができます。

写真：世田谷トラストまちづくりリビジターセンター

Check 1

ゲリラ豪雨から まちを守る庭

雨水を一時的に庭に貯めて、
ゆっくりしみこませる「雨庭」。
地域の災害リスクを減らす一助
になります。

降った雨を受け止める、
スポンジみたいなお庭だよ



Check 4

生きものに やさしい庭

花や草木が増えるとチョウやトン
ボなどの生きものたちもやってきま
す。雨庭は生物多様性を育む、い
のちにやさしい空間です。



自分でもできる

雨庭

世田谷区は23区の中でも戸建て住宅が多
い街です。そのため、トラまちでは区民の
方が個人宅でも実践しやすい「自分でも
できる雨庭」づくりをおススメしています。

雨庭とは

屋根や地面に降った雨水を集めて一時的に貯
留し、ゆっくりと地面へ浸透させる庭です。
下水道や河川へ雨が一気に流れ込むピークを
ずらす一助となるグリーンインフラの手法の
ひとつです。



Check 2

非常用水 として使える

雨水タンクの水は災害時など
の際に非常用水として使えま
す。また、打ち水や家庭菜園の
水やりにも。暮らしにもうれし
いエコな庭です。



Check 3

身近に ガーデニングが 楽しめる

植物を育てるよろこびもたっぷり。庭
づくりや園芸の延長として、自然とふ
れあえる時間が増えます。



Check 5

材料は ホームセンターでも

ホームセンターなどで購入できる
身近な素材でご自身で手づくり
できます。



Question & Answer

『自分でもできる雨庭の手引き
Vol.1、Vol.2(発行：トラまち)』より転載

Q 雨庭は

どこにつくるの？

A 大雨が降ったときに家の敷地をよく観
察すると、雨水の流れる方向や雨水がたま
りやすい場所が発見できます。「普段から
水はけが悪い」「湿り気がある」「水たまりが
できやすい」場所に雨庭をつくと土壌へ
浸み込む力の改善に役立ちます。

雨どい接続タイプの雨庭の場合は、最初

に家にある雨どいの
位置を把握します。

その上で、雨どいの
近くに雨水タンクや

雨庭を設置できる場
所があるかを確認し

ます。雨庭をつくる
場所は建物等の基

礎への影響がないよ
う、家や塀などの構

造物から30 cm以上離
すのが理想です。

雨どい接続タイプの雨庭
イラスト：神谷 博 氏



Q 雨庭は

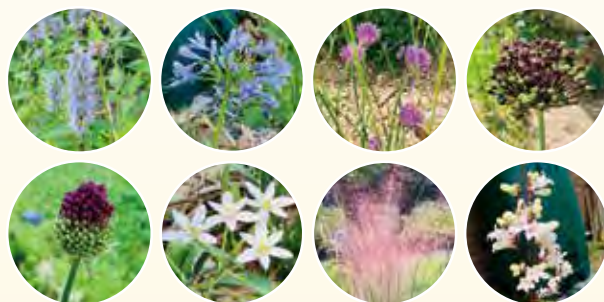
蚊が増えませんか？

A 蚊は、たまり水があると繁殖
します。一方で、雨庭は土壌の排
水・浸透力が高まるので、大雨が
降れば一時的に雨が溜まることも
ありますが、通常は乾いています。
したがって、一時貯留の雨庭には
蚊は発生しません。雨水を貯留で
きる仕様にするならばビオトープ
としてメダカやヤゴ(トンボの幼
虫)が住みつくことで蚊を食べて
くれます。(神谷)

Q 雨庭に合う

植物はなに？

A 雨庭の環境から言うと、乾
燥にも一時的な湿潤にも強いも
ので、イネ科、ユリ科、ヒガン
バナ科、ネギ科などの宿根草(※)
や球根類などが向いていると思
います。地味にならないように
緑色以外の色や模様を持つカ
ラーリーフを取り入れてもいい
と思います。まずは試してみま
しょう。おのずとその場所に合
うものが残っていくので、よく
観察し育てる楽しさを味わいま
しょう。(矢田)



(※)宿根草：発芽し花を咲かせ、冬になると地上部は枯れるが
株は地中に残り翌年も発芽する植物

Q 植物は在来種を

選んだほうが
よいですか？

A 里山や自然の多い場所では、生物
多様性の観点から在来種でも別の場
所からは持ち込まないことが基本で
す。区内でも市街地ではそれほど気
になくてもよいですが、こぼれ種(植
物が自然に地面にこぼした種子)で増
えるような強い種は避け、増えても元
からいた植物と区別がつくような園
芸種のほうがよい場合もあります。選
ぶ際は在来種に限らず、どんな庭に
したいのか目的に沿うようなものを
周りの環境に配慮しながら検討しま
しょう。(矢田)



神谷 博(かみや ひろし)

法政大学エコ地域デザイン研究センター
客員研究員/建築家/景観アドバイザー



矢田 陽介(やた ようすけ)

ポタニカン代表
一級造園施工管理技士/自然再生士

次ページから、区内の3つの事例を紹介します。

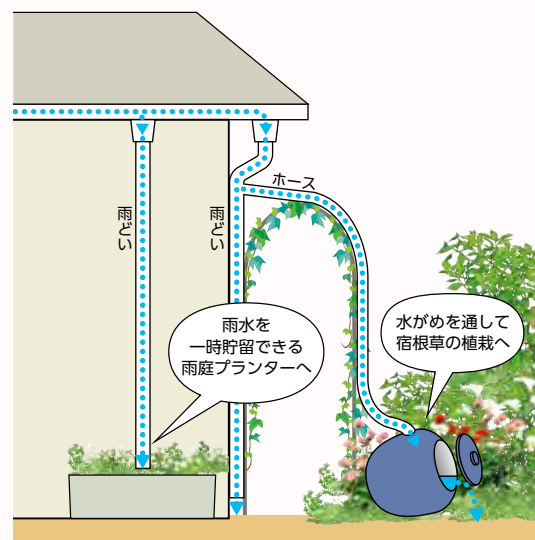


さまざまな視点が交わり 生まれた理想の雨庭

雨庭づくりでは、中野さんが敷地の一部を雨庭づくりに提供し、橋本さんがその部分の安全面を徹底的に点検し、要望を出した。「3歳以下の子どもが主に利用する場所なので、わずかな段差も危険につながります」。雨水を溜める水がめはメダカを入れてビオトープにするプランもあったが、水位が3cm以上あれば溺れる危険があるので蓋をして利用する。

「植物や雨水に詳しい皆さんと私たちそれぞれに価値観があり、意見が合わない時もありましたが、時間をかけて丁寧に合意形成した結果、よいものができました」と橋本さんは語る。

雨庭の設計は雨まちが担当し、植栽の設計はトラまちが担当。開花時期の異なる宿根草や球根をバランスよく配置して植えた。中野さんは「水やりしなくても季節ごとに花が咲き、楽しませてくれます」と笑顔をみせる。かつて雑草に悩んだ駐輪場の一角にはイチゴやハーブを植えたプランターを設置。雨どいから直接雨水を取り込めるようにしている。「たくさん実っ



▲水がめから溢れる雨水が植物を潤し、春から初夏にはバラ、ギボウシ(写真左)、ティアレラ(写真右)などの花が雨庭を彩る。

身近な場所がまちを守る 雨庭が生む未来への学び

てみんなでおおいしくいただきました。自宅も雑草が多いので真似したいですね(橋本さん)。

雨庭は子どもたちの学びの場にもなっている。橋本さんは「プロジェクト中に数回、雨庭のワークショップを開催しました。子どもたちは散歩中にも雨どいを見ついたり、雨水の流れを観察するようになりました。これまでも自身、ゲリラ豪雨対策で個人にできることがあるとは思っていませんでした。自分の関わる場所が役立っている」と知り、子どもたちも誇らしいので

雨庭が育む 豊かな緑と 防災のヒント

「雨庭」の役割は、ゲリラ豪雨などによる水害を抑えるだけではなく、雨水を利用して植物が健やかに育つ環境をつくり、自然の力を生かしたガーデニングを楽しむこともできる。そんな雨庭の魅力を実際に生かしているのが、喜多見にある地域共生のいえ(※)「ふくふくのいえ」だ。

オーナーの中野瑞子さんと、ここで「おでかけひろば」を運営する一般社団法人よこいと代表の橋本陽子さんが雨庭に取り組んだのは、トラまちからの「雨庭をつくってみませんか」という提案がきっかけだった。「世田谷区は宅地が多いので、個人宅の小さなスペースでも雨庭を作れば水害対策に役立つと聞き、ぜひやりたいとお応えしました」と中野さんは振り返る。橋本さんも「新しいチャレンジで面白そうだと思います」と語る。

2022年、区内で雨庭づくりに取り組む場所を探していた「特定非営利活動法人雨水まちづくりサポート」(以下雨まち)との共催で、「ふくふくのいえ」のプロジェクトはスタートした。

は」と話す。中野さんは「雨庭やグリーンインフラという言葉や、雨庭が小さなスペースでもできることを知ってもらうきっかけにはなれたのかな。お子さんと雨庭づくりに取り組めば、立派な自由研究にもなりますね」と語る。

橋本さんが「雨どいにホースを挿して水がめやプランターに水を引き込むだけでも雨庭の第一歩となるのでは。興味を持ったらずつ試してほしい」と語ると、中野さんは「一つずつ仕組みを足していくのもきつと楽しいね」と続けた。

「ふくふくのいえ」の雨庭は、美しい緑で地域を彩りながら、身近な場所が防災や減災の一助となることを教えてくれる。

オーナー
中野 瑞子さん



ふくふくのいえ

オーナーの生家の1階と庭を活用し、乳幼児とその親のつどい場「おでかけひろば」を運営。オーナーによる「ご近所サロン」の日は近隣のシニアの憩いの場に。庭はトラまちの「小さな森」としてひらかれています。



詳しくは
こちら
QRコード

一般社団法人よこいと代表
橋本 陽子さん

(※) 地域共生のいえ：世田谷区内の家屋等のオーナーが自己所有の建物を活用して主体的に行うまちづくり活動とその拠点



ひらかれた雨庭からはじまる

防災と地域のコミュニティ

「きっかけは区が開催している『世田谷グリーンインフラ学校』のチラシ。『自分でもできる雨庭づくり』というタイトルに惹かれました」

2018年に大阪で小学校のブロック塀が倒壊し、児童が犠牲になった事故に胸を痛めていた中村恭子さん。受講を決めた当時は、上野毛にある自宅のブロック塀を撤去したばかり。通りに面して開けた駐車場と庭を、どう整備するか考えていた時期だった。

講座では座学と実習を体験し、雨庭を自ら施工するプランも立てる。29年前、「自然豊かな場所で子育てがしたい」と真鶴を気に入り移住。仕事は世田谷との二拠点生活となった。自然を愛おしく思い、共生の関わりを大切にしてきた中村さん。「なるべく土を残したい」と考えたプランは講師陣からも高く評価された。

講座が修了するとすぐ、区の緑化助成や雨水浸透ます浸透トレンチ等の助成を申請し、工事に着手。「近所の造園屋さんをお願いして駐車場は雨水浸透型に整備し、仕上げは煉瓦と



植栽を施しました。シンボルツリーを植える予定だった場所は地下に配管があったので、プランター型の雨庭に変更しています。雨どいの下には雨水浸透ますを埋設。その上に置いた蓮の鉢も通りを行く人々の目を楽しませる。「写真を撮っていかれたり、『咲きましたね』などと声をかけられ、立ち話をすることも増えました」。開放的になった庭は人との交流を生み、また、人の目が届くことで防犯にもつながったという。「ここで台所でもできる堆肥作りのミニイベントを開いたことも。人々の交流の場や居場所としても育つといいですね」



中村さんは「雨庭は都市の限られた空間でも防災や環境への貢献を実感できる」と語る。ここから人と人、人と自然とのつながりが広がっている。



世田谷区の助成制度
についてはこちら

世田谷グリーンインフラ学校 2期生
中村 恭子さん



▲ブロック塀 撤去前



▲ブロック塀 撤去後
みどりが感じられる開放的な空間。



▲蓮の花
▲「ご自由どうぞ」と育てた苗や採っておいだ種を並べる。
「お礼の声や、中には自宅で採れた野菜をくれた人も」

想像以上の豊かな暮らしが広がった地域に根づく憩いの雨庭

河村さんご夫妻が代田に所有する建物は、斜面の中腹にある。1階の入口が道路より低くなっているため、雨は不安の種だった。「近年のゲリラ豪雨で、とうとう浸水してしまったんです」と夫の容治さんは語る。対策を思案していた時、妻の豊子さんから渡されたのが世田谷グリーンインフラ学校のチラシだった。「雨庭について学ぶだけのつもりだったのに、工事を決めていました」と笑う。一級建築士である容治さんにとっても「多くの学びがあった」と振り返る。

受講後も、区のイベントにブースを出していたトラまちを夫婦で訪ねた。豊子さんによると、「トラまちさんが雨庭の相談窓口をちようと試行していて、雨庭づくりに必要な建築士やガーデナーなどの専門家を派遣してくださったんです。そこからトントン拍子に話が進みました」

受講後も、区のイベントにブースを出していたトラまちを夫婦で訪ねた。

道路と敷地の間には立ち上がりをつくり、雨水が流れ込むのを防ぐだけでなく、雨庭となる花壇を設け、雨水を地面に浸透させている。障害児のための布おもちゃを手づくりするボランティア団体「TOY工房どんぐり」の代表を務める豊子さんは「グリーンインフラ舗装(透水性ブロック)も施し、ただの通路だった斜面が平地となり、作業場として使えるスペースに生まれ変わりました。いつも1階の一室で活動していますが、天気の良い日はここにテーブルを出し、花を見ながら作業するのが楽しみです」と笑顔を見せる。

もともとあったベンチを再び道路沿いに設置し、隣に自動販売機を置くと、憩いの場としての役割が高まった。「犬の散歩の方などがここで待ち合わせをしたり、休んでいく方も。近所の方からも感謝の言葉をいただいています」

世田谷グリーンインフラ学校 4期生
河村 容治さん

河村 豊子さん



▲雨庭花壇は、芽吹きから枯れるまで自然風の雰囲気を受取る「ナチュラルスティックガーデン」を意識したエリアや、ハーブなど食べられる種類を集めたエリアなどで構成されている。

雨庭花壇の草花やシンボルツリーのどんぐりの木も美しく育ち、防災面の効果はもちろん、地域の癒しの場としても成長している。



雨庭を探しに
お出かけしてみよう！

雨庭の宿根草の手入れを 区民と一緒に取り組んでいます

令和4年度「世田谷グリーンインフラ学校」の演習で手づくり施工した3箇所の雨庭と宿根草の手入れを月に1回、区民の皆さんと一緒に取り組んでいます。その活動の様子をご紹介します。



13:30

現地に集合
3箇所の雨庭の宿根草の様子を観察しながら前回の手入れの振り返りをします。

13:45

集まったメンバーで今日の作業内容を確認、分担して作業開始！

14:30

花がら・雑草とり
大きく育ちすぎた株は切り戻しや株分け



雨水を呼び込む雨庭だけど
植え替え・お手入れ後は
たっぷりお水をあげよう

15:00

ベンチで休憩しながら今日の作業の振り返り
収穫したハーブや種をみんなで分けます



その場で手作りハーブティを
試飲する日もアリ

雨庭スポット

所在地	住所
世田谷トラストまちづくり ビジターセンター	成城 4-29-1
地域共生のいえ「ふくふくのいえ」	喜多見 9-14-15
次大夫堀公園内里山農園	喜多見 5-5
弦巻四丁目松の木鈴木市民緑地	弦巻 4-22-2
奥沢二丁目公園	奥沢 2-39-9

「自分でもできる雨庭の手引き」公開中！



Webから
ダウンロード！



「自分でもできる雨庭」の相談窓口を試行中です

個人宅などで取り組める雨庭づくりについて、一層普及していくための雨庭相談窓口を試行しています。まずはお気軽にご相談ください。

(一財)世田谷トラストまちづくり トラストみどり課
☎ 03-6379-1624 (受付：平日8:30～17:00) Fax.03-6379-4233
✉ stm.201@setagayatm.or.jp



場 所 | 区立奥沢二丁目公園 (東京都世田谷区奥沢 2-39-9)

活動日 | 第二金曜日 13:30 ～ 15:30 (夏は午前中の場合も)

申 込 | 不要・直接現地へ

※雨天・酷暑の場合は中止します。

財団 SNS「#奥沢コミュニティ雨庭」で検索

服装・持ち物 | 長袖長ズボン、帽子、軍手、水分補給用の飲み物など

問合先 | (一財) 世田谷トラストまちづくり

☎ 03-6379-1620 (平日 8:30 ～ 17:00)



▲切り出された材を次大夫堀民家園へ提供



▲伐採されて2本のヒマラヤスギに

成城三丁目 こもれびの庭市民緑地

「3本のヒマラヤスギ」の1本を
お別れ茶話会を経て伐採しました

長らく成城のまちで愛されてきた成城三丁目こもれびの庭市民緑地「3本のヒマラヤスギ」は、中央の1本に樹勢の弱まりが確認され、これまで回復のために様々な対策を行ってきました。

しかし、残念ながら改善の兆しがなく、国分寺崖線のみどりを守る(一財)世田谷トラストまちづくりとして大変つらい決断ではありましたが、まちのみどりを守る観点から両側2本への将来的な影響に鑑み、去る1月15日(水)に中央の1本を伐採しましたのでご報告いたします。



▲1992年10月

お別れ茶話会

伐採に先立ち、昨年11月23日(土)、市民緑地にお集まりいただいた「ヒマラヤスギお別れ茶話会」では、成城の歴史やみどりに詳しい荒垣恒明氏(成城学園教育研究所)と岩村徹氏(成城自治会副会長)にご登壇いただき、ヒマラヤスギの思い出や大切にしたいみどりについて、40名ほどお越しいただいた地域の皆様と語り合いました。

また、市民緑地オーナー・ご親戚・成城自治会のご協力で、成城のまちならではの特徴のある樹木や、こもれびの庭の昔懐かしい様子を写した写真が展示され、普段立ち入れない芝生の庭も開放いただき、3本のヒマラヤスギを背景に記念撮影を行いました。



▲会場に設けられた写真展示



▲お別れ茶話会での語り合い

伐採とその後

伐採当日は天候にも恵まれ、伐採作業を開始する前には、これまで成城のシンボルとして見守ってしてくれた感謝の気持ちを込めて、地域の皆様と一緒にお清めを行いました。これに続いての作業は安全第一とし、空師と呼ばれる職人がロープを巧みにさばきながらあつという間に天辺へ登り、クレーンオペレーターとの匠の技の連続により、日没前に全ての作業を無事に終了することができました。

現地には想いを伝える形で切り株を残し、切り出された材の一部は、次大夫堀民家園ボランティア「木挽きの会」にて新たなカタチで活かされます。また、成城の文化・風土を次の世代に残す取り組みの一環として、成城のまちづくりと深い関わりのある成城学園の教育研究所へ年輪が分かる材を提供しました。今後は2本のヒマラヤスギの維持管理に努めるとともに、みどりの記憶の継承を図っていきます。

成城三丁目こもれびの庭市民緑地

・所在地 成城3-6-20
・公開日 年末年始を除く、午前9時～午後5時
(11月～3月は午後4時まで)

トラストまちづくり 会員募集

当財団では、賛助会員を募集中です。寄附として1,000円以上を納めてくださった方を、その年度の賛助会員としています。

いただいた寄附金は、当財団の活動に役立たせていただきます。会員の方には年に4回、イベント情報などをお届けします。

詳しくは
こちら



トラストイベントカレンダー▶



まちの中にそっと息づくみどり
世田谷トラストまちづくりの
「小さな森」

小さな森は、世田谷のまちに点在する個人所有のお庭や緑地を地域の宝として登録・保全する財団独自の取り組みです。区民の方々にみどりを保全することの大切さを知ってもらうために公開日を設けてオープンガーデンを開催しています。個人宅の庭が多いため、通常は開催日以外は非公開ですが、下記の小さな森は普段でも訪れることができます。

小さな森
についての詳細は
\ こちら /



成城コルティ小さな森

成城6-5-34 成城コルティ4階 公開時間：10時～ 22時



成城学園前駅に直結する「成城コルティ」の4階にある2つの屋上庭園も「小さな森」に登録されています。東側の「雑木林の丘」は、成城に見られた雑木林をイメージした木立で、新緑や紅葉などで季節を感じられます。西側の「オリ



ブの庭」は、その名の通りオリーブなど柑橘類や草花など西洋的な庭で、休憩もでき、晴れた日は富士山も眺めることができます。「成城コルティ」の営業時間内は、基本的に自由に散策が可能です。

瀬田・水琴窟の音響く小さな森

瀬田5-4-3 公開時間：9時～17時



瀬田農業公園(フラワーランド)や旧小坂緑地、農地なども点在するみどり豊かな瀬田地区にある小さな森です。和風庭園を基準に作られており、つくばい、延段、竹垣、樹木などが配置されています。また、お庭の奥には名称の由来となった水琴窟(水滴が落下する際に発せられる音を反響させる仕掛けのこと)があります。水琴窟が奏でる清らかな水滴の音色を、ぜひとも体験ください。

野沢3丁目テットーひろばの小さな森

野沢3-14-22

開園時間：10時～17時(11月～1月は16時まで)
休園日：木曜日・日曜日・お盆時期・年末年始



住宅街にひと際目立つ白い鉄塔の真下にある小さな森です。NPO法人野沢3丁目遊び場づくりの会が運営する「のざわテットーひろば」は、子どもたちの成長を自然豊かな環境で見守れる地域の集いの場です。藤棚でのおまごど、泥んこ遊びにどんぐり探し…。クスノキにかかったツリーハウスや果樹等で構成されたお庭は、今後の小さな森の多様性を感じることができます。



一般財団法人 世田谷トラストまちづくり
SETAGAYA TRUST & COMMUNITY DESIGN

2025年12月発行

〒156-0043 世田谷区松原6-3-5
Tel 03-6379-4300(代表)
Fax 03-6379-4233



【財団ホームページ】
世田谷トラストまちづくり
<https://www.setagayatm.or.jp/>

Facebook



X(旧Twitter)



Instagram

